

赤道ギニア共和国で マールブルグ病が発生

赤道ギニア共和国

- Kie Ntem県で9例の疑い死亡例が出ている。
- 死亡例と持続的な直接的接触があった16例が疑い例とされている。

(令和5年2月12日時点)



マールブルグ病

【**感染経路**】 コウモリの排泄物を吸い込んだり、接触したときにうつる可能性あり。感染した人(遺体を含む)の血液や体液等に直接接触した際及び性的接触によりヒト・ヒト感染が生じる。

【**主な症状**】

- ・ 突然の高熱、強い頭痛と全身倦怠感で発症。筋肉痛を伴う。
- ・ 3病日頃に重度の水溶性下痢、腹痛、嘔気嘔吐が生じ、水溶性下痢は1週間程度持続する。
- ・ 2～7病日目に無痛性の皮膚紅斑が見られた事例もある。
- ・ 多くの患者で5～7病日頃に出血症状が見られ、吐下血のほか、鼻腔、歯肉、静脈穿刺部等からも見られる。

【**発生地域**】

ウガンダ、ケニア、アンゴラ、コンゴ民主共和国、南アフリカ共和国、ガーナ

この病気に対する確立された治療法やワクチンは今のところありません。流行地域や動物(特にコウモリ)に近づかないことが重要です。

感染した人の血液や体液、これらに汚染された可能性のあるもの、動物(死体を含む)に触らないでください。

詳しくは
→ → →

検疫所ホームページ FORTH

<https://www.forth.go.jp/>

FORTH マールブルグ病



マールブルグ病が発生 赤道ギニア共和国に滞在した方で 体調に異状がある方は 検疫官にお知らせ下さい

マールブルグ病

【感染経路】 コウモリの排泄物を吸い込んだり、接触したときにうつる可能性あり。感染した人(遺体を含む)の血液や体液等に直接接触した際及び性的接触によりヒト・ヒト感染が生じる。

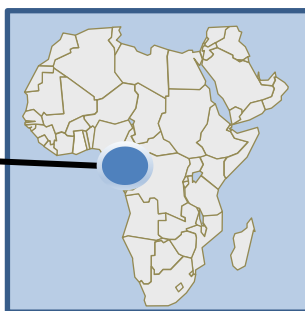
【主な症状】

- ・ 突然の高熱、強い頭痛と全身倦怠感で発症。筋肉痛を伴う。
- ・ 3病日頃に重度の水溶性下痢、腹痛、嘔気嘔吐が生じ、水溶性下痢は1週間程度持続する。
- ・ 2～7病日目に無痛性の皮膚紅斑が見られた事例もある。
- ・ 多くの患者で5～7病日頃に出血症状が見られ、吐下血のほか、鼻腔、歯肉、静脈穿刺部等からも見られる。

【発生地域】

ウガンダ、ケニア、アンゴラ、コンゴ民主共和国、南アフリカ共和国、ガーナ

赤道ギニア共和国



この病気に対する確立された治療法やワクチンは今のところありません。流行地域や動物(特にコウモリ)に近づかないことが重要です。

感染した人の血液や体液、これらに汚染された可能性のあるもの、動物(死体を含む)に触らないでください。

詳しくは
→ → →

検疫所ホームページ FORTH
<https://www.forth.go.jp/>

FORTH マールブルグ病

